

湯沢雄勝

広域市町村圏組合消防本部  
警防課通信指令班 主任

柴田 華さん  
しばた はな  
(28歳)

女性消防士として指令センターで活躍

見えない相手への対応力を生かして、  
地域との繋がり、

## 地域のみなさんに 育てられた

### これまでの Story

私は小学校からずっとアルペンやクロスカントリー等のスキーをやってきました。幼い頃から体を動かすことが好きだったので、将来は体を使った仕事がしたいと思ってきました。これまで、女性の消防士の採用実績がなく、まさか採用されるとは思っていなかったので、消防士採用の通知をもらったときは本当に驚きました。自衛隊の内定をいただいていたのですが、地域に貢献できる消防士の仕事を選びました。学生時代、「おっ、今日も走ってるね～」と声を

かけてもらったりと、地域の方々に見守られて育ってきた感覚が強かったんです。現在は119番を受信する指令センターの主任として勤務しています。

### 女性消防士の 後継者育成のために

#### 仕事に対する考え方

入署して5年間は火災・救急等の災害現場に出動する仕事でした。現場では消火活動する際、あまりの水圧でホースを支えきれず仲間に迷惑をかけて悔しい思いをしました。

県内初の女性消防士だったこともあり、先輩たちは私の扱いに手探り状態でしたね。私も「男女の区別なく

やりたい」という負けん気が先走り、心配する先輩たちとの温度差に違和感を覚えることもありました。でもあるとき、意地を張っても要救助者のためにならないと気づきました。今は体力に限界を感じるときは「お願いします」と意思表示をして周囲に協力を求めるようにしています。現場から教わることは多かったです。素直になることができてからは無理することもなく自分の役割を全うすることができます。

消防士として10年が経った今もたくさんの気づきや学びが日々得られる職場に感謝しています。自分が歩いてきた足跡が後輩女性消防士たちの道となるべになるよう、後輩のキャリア育成も意識していきたいと考えています。

### キャリア形成に役立った スキルや経験

現在勤務する指令センターには日々さまざまなレスキューが寄せられます。顔の見えない相手から状況を聞き出し、それを把握して、現場に駆けつける消防職員に伝えるという重要な任務に就いています。

おじいちゃんやおばあちゃんの秋田弁を聞き取ることができるとも、この地域で育ってきたからこそだと思うのですが(笑)、なにより正確な情報を把握する能力が要求されます。これまでの現場経験が非常に役に立っています。

取り乱して電話をしてきた相手を落ち着かせ、得られる少ない情報から瞬時に現場を想像する力など、経験がものを言う場面が多く、先輩から対応ケースを聞いたり過去の事例を調べて日々研さんを積んでいます。

最近、消防車も運転できる中型免許を取得しました。地域の地理を把握していることを生かして消防車の運転にもチャレンジして行きたいです。



救急訓練では高い技術力と  
的確な判断力が求められる



### 現在の仕事の悩み

楽観的あまり深く考える方ではないので、基本的に悩みは抱えないタイプです(笑)。女性職員のロールモデルも相談できる女性職員もいない状態ですから、あれこれ考え過ぎないようにしています。



山頂でのカップラーメンは  
格別!

## 休日は山頂で カップラーメン

### プライベートと仕事の両立

仮眠を取りながらの24時間勤務が基本で、隔日勤務を3回繰り返した後は3連休といった不規則な勤務体制です。

趣味はジョギングやロードバイク。あとはよく登山もします。山頂であったかいカップラーメンを食べるのが好きなんですよ(笑)。山へはリフレッシュのために行きますが、実は山を知るのは救助の際にも役立ちます。

プライベートと仕事の両方で得た知識と経験を生かして、これからも育ててもらった地域の皆さんに恩返しをしていきたいですね。

消防訓練の大会は男女の区別なく行われるのですが、柴田さんは厳しい練習を重ね、志願して毎年出場しています。また、指令センターの仕事は、見えない相手への高い対応力が求められる仕事で、マニュアル通りにやってうまくいかないことが多いのですが、柴田さんには柔軟性が備わっているので安心して任せることができます。

秋田県の救急救命の技術は全国トップクラスで、私は柴田さんが救急救命士になって、女性ならではの感性を発揮してくれることを強く願っているのですが、押し付けてもダメですね(苦笑)。

### はなさんの応援団



警防課 課長(救急救命士) 高橋 義浩さん